

[▶ ホーム](#)
**学会案内**
[▶ 概要](#)
[▶ 定款等](#)
[▶ 組織・役員](#)
[▶ 事務局・連絡先](#)
**市民の皆様へ**
[▶ 医療における放射線被曝](#)
[▶ 放射線科の紹介](#)
[▶ 放射線・原子力関連情報](#)
[▶ 放射線医学の歴史](#)
[▶ レントゲンの日](#)
**医学生・若手医師へ**
[▶ 若手医師・学生の皆様へ](#)
**日本医学放射線学会雑誌投稿規定**

2006-6-1 16:18:44

**日本医学放射線学会雑誌投稿規定(平成12年1月1日より実施)**
**投稿規定**

1.筆頭投稿者は、日本医学放射線学会の正会員に限る。但し 共同執筆者は所定の金額を納入すればこの限りでない。尚共同執筆者は11名までとすること。但し それ以上の場合は編集委員会の承諾を得る。

2.原稿の内容は放射線医学、ならびにこれに関連のある領域とし、以下の投稿区分に分類する。

- (1)巻頭言・総説など：編集委員会からの依頼による。
- (2)原著：独創性に富み目的、結論等の明確な研究論文。
- (3)研究速報：独創的な研究、工夫、仮説などを内容とし早急に発表する必要のあるもの、研究速報を希望する理由を文書で説明すること。編集委員会が認めれば、他に優先して掲載する。
- (4)症例報告：放射線医学的に興味ある症例。
- (5)テクニカルノート：新しい装置、技術、診断治療法の開発など、主としてテクニカルな点を強調したもので、十分な臨床成績を積む前に報告する必要のある論文。
- (6)特別講演：本学会総会および秋季臨床大会において発表されたもので、原則として発表後6ヵ月以内に投稿されたもの。

(7)通信：本誌掲載論文などに対する意見および回答。

3.投稿論文の採否は査読者の意見を参考にし、編集委員会で決定する。特に掲載を急ぐ論文は編集委員会の承認を得て特別掲載とする。

4.原著、研究速報、症例報告、テクニカルノートは放射線医学に関連のある基礎的、臨床的研究で他誌に未発表のものであること。

5.全著者が論文内容について異議のないことを証明するために全著者よりサインを得ること。

6.投稿論文は動物実験、臨床研究のいずれにおいても生命倫理に十分な配慮がなされたものであること。

7.掲載された論文の著作権は 日本医学放射線学会に属し その全部または一部を無断で他誌へ掲載してはならない。

**8.執筆上の注意**

(1)原稿は和文または英文とする。和文原稿はB5判横書き400字詰原稿用紙を用い、黒インクまたはボールペン(黒)を用いて楷書で書く。ワードプロセッサなどを用いる場合にはA4判の白紙1枚に20字×20行とし、上下左右に5cm程度の余白をとる。英文原稿はA4の用紙にダブルスペースでタイプし、1枚は1行60打字で21行とする。

(2)原稿の記述は、標題、欄外見出し(簡潔標題)、著者氏名(和文および英文)、著者所属(和文および英文)、研究分野コード、キーワード(英語3~5語)、抄録(別表参照)、本文、引用文献の順とし、図、表および写真は別とする。欄外見出しは和文原稿で30字以内、英文原稿で40字以内とする。

(3)放射線の量の単位はSI単位を原則とする。例：1 Gy、1 Bq、1 C/kg、1 Sv 但し、障害防止に関する法令についての記述には、その法令に限定している単位を用いてよい。

**▶ 入会案内**
**▶ 会員のみなさまへ**
[▶ What's New](#)
[▶ 会員向けの情報](#)
[▶ 学会からの情報・ガイドライン](#)
[▶ 安全に関する情報](#)
[▶ 会報・会告](#)
[▶ 学会誌・出版物](#)
[▶ 学術大会\(春・秋\)](#)
[▶ 地方会案内](#)
[▶ 国際交流](#)
[▶ 関連学会集会](#)
[▶ 利益相反](#)
[▶ 専門医制度](#)
[▶ 医学物理士制度](#)
[▶ リンク集](#)
[▶ 電子放射線診療用語集](#)
**会員専用ページへ**


閲覧には会員番号と  
パスワードが  
必要です



日本語

 Search

(4)計量単位はSI単位(JIS Z8203-1983)を原則とする。例:kg、g、mg/dl、l、ml、m、cm、°Cなど。

(5)一般的でない略語を使用する場合には、必ずその母体となる用語を最初に明示し、括弧内にその略語を連記すること。母体となる用語が日本語で、かつその略語に外国語を用いる場合には、括弧内にその外国語を明示し、次いでその略語を記すこと。磁気共鳴に関する撮像や信号取得の条件は、これを最初に記載する時点では以下の例のごとく表現する。500/30/4(TR/TE/excitations)あるいは1500/300/30/1(TR/TI/TE/excitations)、二度目から500/30あるいは

は1500/300/30として、励起回数(excitations)は省略する。

(6)図、表および写真はFig]あるいはTable Iのように番号をつけ、原稿には図、表、写真を組み込む場所を横欄外に記す。図、表は英文とし、その説明は写真も含めて別に記載する。写真はキャビネサイズの光沢印画紙に1枚ずつ焼き付け、裏面に筆頭者名、番号、上下を記入する。同種類の写真(胸部単純写真の正面像と側面像、MRI水平断とCT水平断など)は、原則として同一の拡大率とする。患者名、カルテ番号など患者を特定できるような項目は表示してはならない。また、画像上に表示される撮像条件、検査日時などを示す文字も、必要なもの以外はトリミングして、写真にはできるだけ焼き込まない。図、表の原稿は、本文と同じサイズの白紙または青色方眼紙に黒インク書き、または高品位なプリンタで出力したもの、あるいはキャビネサイズの光沢印画紙に1枚ずつ焼き付けたものとする。

(7)文献は著者名(筆頭から3名まで、それ以上は他、et al とする。)、論文表題、雑誌名、巻、頁、発行年の順に書く。文献は本文中に引用した順に1)、2)、3)、...とし雑誌名の略語はIndex Medicusや医学中央雑誌を参考にする。

なお欧文文献は必ずタイプする。

- 例:1) Peterfy C, van Dijke C, Janzen D, et al: Quantification of articular cartilage in the knee with pulsed saturation transf6r subtraction and fat-suppressed MR imaging; Optimization and validation. Radiology 192: 485-491, 1994  
2) Goske M, Modic M, Yu S: Pediatric spine; Normal anatomy and spinal dysraphism. (In) Modic M, Masaryk T, Ross J ed: Magnetic resonance imaging of the spine. 2nd ed. 352-387, 1994, Mosby, St. Louis  
3) 福田国彦: 骨・軟部組織疾患。小塚隆弘、内藤博昭、原田貢士編: MRIの基礎と臨床, 191-209, 1994, 永井書店、東京  
4) 辰野 聡、宮本幸夫、石原 潔、他: 甲状腺原発悪性腫瘍の超音波断層像。日本医放会誌54 : 853-859, 1994

[このページのトップへ戻る](#) ↑